

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
水谷 史男			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-140801-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査実習の企画立案・予備調査および実施準備・現地調査、そしてインタビュー記録の作成や報告書執筆まで、すべての過程で学生全員が積極的に参加し、無事に調査を終えることができた。今回は東日本大震災の被災地での調査ということで、調査地決定も時間をかけて検討し現地でのインタビューは苦勞するところもあったが、学生諸君は被災地の現状を直接経験することができて実り多い実習ができたように思う。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

福島原発事故による避難住民の体験と課題 - 福島県田村市地区でのインタビューから

2. 調査の内容／概要：

東日本大震災とそれともなう福島第一原発事故による、住民の生活状況について、現地仮設住宅等での住民への聴き取り調査、および復興支援の現状について、社会学的視点から把握し考える。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

福島県田村市における避難住民を対象とするインタビュー、およびアンケート。調査対象者は田村市の仮設住宅に住む都路地区からの避難者20数名。対象者の選定は、現地で復興支援に当たっている「復興応援隊」の協力を得て、仮設住宅に居住する方々のうち調査に協力していただいた方に面接調査をした。

4. 主な調査項目：

大震災と原発事故による避難当時の状況、その後の仮設住宅等での生活状況、2014年春以降の都路地区への避難解除に伴う帰還の見通し、補償問題やこれからの生活の展望など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

現地での面接聴き取り調査。個別インタビューによる回答を音声で記録し、テープを起こしてインタビュー記録を作成し、それと既存の統計データなどを合わせ、分析した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

現地での本調査は、2014年9月21～24日の4日間、福島県田村市にて実施。調査員は実習履修学生14名および担当教員が参加した。このほか予備的な現地調査として、6月から7月にかけて田村市および宮城県気仙沼市、岩手県南三陸町でも聴き取りを行った。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

おもなデータはインタビューによる記録なので数量統計的な調査ではないが、一件1時間から2時間をかけたインタビューの内容はすべて記録として保存し、分析を行った。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

福島原発事故に関する避難状況の全体については、統計的なデータおよび各種の既存資料なども検討している。インタビューの分析は、聴き取りに即して履修学生が項目別の分析を分担して行っている。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

田村市の被災状況、仮設住宅での生活にはさまざまな問題があること、とくにこれからの自宅への帰還と生活再建について、住民の間にも態度や意識の相違が見られること、それに行政や外部からの支援がどのように関わっていくか、課題は複雑であること。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.31 2015年3月刊行